



KANDA, NISSHO MEMORIAL MUSEUM of ART

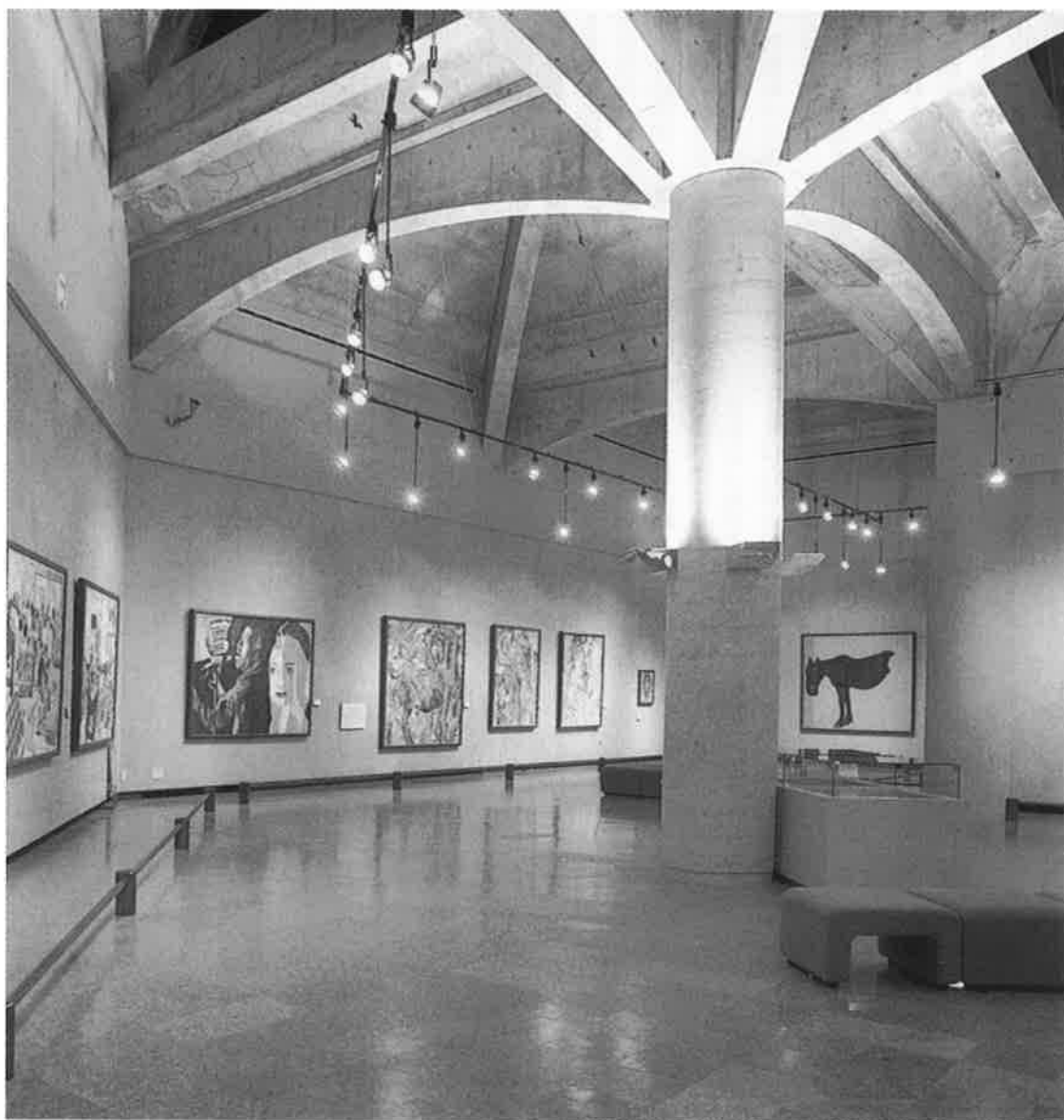
1995・5・30 発行

記念館だより

No. 2

神田日勝記念館

〒080-02
北海道河東郡鹿追町東町3丁目2
TEL (0155) 6-1555



十勝／に／ひ／か／れ／て

神田日勝記念館館長 高橋 揆一郎



になったこのめぐり合わせに感謝しないわけにいきません。

十勝の、鹿追町の、人と自然の豪放でゆったりと調和した風土にひかれるうちに、私は虫の眼から鳥の眼に変わる自分を感じます。

実は札幌からJRの特急で鹿追町入りするときに、私は札幌脱出の解放感に浸っていたのです。画家日勝がこの風土の終生のテーマを定めていった心的経緯もあらためてうなずける思いです。

神田日勝記念館に着任して、この四月に二年目の辞令を受けました。月に一／二度の割で通ううちに鹿追町が第三のふるさとなりそうです。生まれ故郷が炭鉱町の歌志内。つぎが都会の札幌。そして農業園の鹿追町。これ以外に仕事の間としたところがありませんから、ここに第三のふるさと感覚が芽生えるのは私としては自然のなりゆきです。いいかえれば広大な北海道にあって、空知・石狩から十勝へと三角点を得て、第三の人生を美術館の仕事に捧げること

田園の中の孤峰ともいうべきたずまいのこの記念館が着実に人を集めているのは、郷土への愛着を根に祈りをこめて彩管を揮った画家のひたむきな生きざまが、脚下照顧の昨今の精神文化見直しの欲求と共鳴するからだと思われています。美術に関しては一好事家の域を出ない私ですが、記念館

の強烈な個性を広く知ってもらうこと、それが自分の仕事だと心得ています。

今年も記念館は多くの催事を企画していま

す。日勝ゆかりの画家たちの個展をはじめ、子供たちにも絵をかくことの楽しさをもっと知ってもらいましょう。馬の絵もかいてもらいましょう。

私はむずかしい理屈抜きの開かれ親しまれる美術館指向論者です。会うごとに深まってゆく町の関係者とのつきあい

を通して見る鹿追の人びとの心優しさにもひそかに感動を覚える私です。少しでもお役に立ちたいと考えています。



展覧会

多彩に開催される

平成6年度も、各種展覧会事業を実行委員会のご協力のもと、町民ホールを会場に開催することができました。

会員や十勝在住の作家の作品も特別出品されました。会場の監修は竹岡羊子氏があたり、見事な会場構成となりました。会期中の観覧者は六千人を数え、盛会でした。

一 脇坂裕展

絵画サークル「彩の会」会長として油彩画の制作に取り組んでいる脇坂裕氏の初めての個展が、地元作家展の第二弾として、八月十三日から十七日の会期で開催されました。作品はいろいろも鹿追の身近な風景を題材に制作されたもので、その美しさが感銘を呼びました。

一 小坂国男作品展

八千代出身のイラストレーター小坂国男氏の二回目の作品展が、十月七日から十一日の会期で開催されました。前回の「十勝どころ青春記」に描かれた作品の再公開と併せ、今回は愛娘仁美さんの骨髄移植による奇跡の生還を描いた『希望』の原画も展示されました。

一 加地保良木炭画作品展

神田日勝とも親交があり、鹿追町の絵画教室の講師等としても活躍されている加地保良氏の作品展が二月十二日から十九日までの会期で開催されました。四十年前に描かれた木炭デッサンを中心に、六十点余の作品が展示され、併せて書友・画友等との書簡類を通して氏の交遊の深さと広さを実感させる企画となりました。なお平成六年度絵画教室受講生の作品も公開され、興味を呼びました。

一 在道独立作家展

神田日勝記念館の開館一周年を記念する事業として、四月二十三日から五月八日の会期で、町民ホールを会場に開催されました。神田日勝が独立美術協会に出品を続けた作家であることに因み、北海道で独立展をめざす画家の作品を一同に会した作品展で、札幌時計台ギャラリーの出品作の殆どが展示され、併せて砂田友治・竹岡羊子・栃内忠男氏といった道内

在道独立作家展▶



小坂国男
作品展▶



◀脇坂 裕展



▼加地保良木炭画作品展



赤レンガ建築奨励賞受賞

北海道のすぐれた建築物に与えられる平成六年度北海道赤レンガ建築賞の奨励賞を、鹿追町民ホールとともに神田日勝記念館が受賞しました。



神田日勝記念館全景

馬耕忌の開催

第二回馬耕忌が八月二十八日に開催されました。第一部は献花。第二部は竹岡和田男氏をコーディネートするに、全道展会員池田緑氏、市立小樽美術館羽二生七重学芸員、そして高橋操一郎記念館長をパネリストに、小美術館のあり方を探りました。第三部の交流会は恒例の成吉思汗パーティー。多い

に親睦の輪を広げました。



ギター演奏と散文の朗読（馬耕忌）

入館者十万人達成

九月一日、神田日勝記念館の入館者が十万人を達成しました。新得町在住の伊丹直子さん。美術館巡りが趣味で、記念館を訪れたということです。



記念品をうけとる伊丹さん

絶筆「馬」修復

絶筆「馬」が十二月から三月の期間、京都のあととすぎうらで修復されました。直射光線からベニ

ヤの変色を防ぐための保護膜を塗付すること、釘の錆止めが主目的の作業です。なお作品の裏面には笹川連合区の運動会で使用された「狐チーム」のための狐が、青い痕跡を残していました。



絶筆「馬」と裏面の狐の絵

美術館講座開催

六月十二日道立近代美術館の奥岡茂雄学芸部長、十一月十六日東京セゾン美術館の土田久子学芸員を講師に美術館講座が開催されました。



奥岡・土田両氏の講義

芸術鑑賞バスツアー

優れた芸術作品に触れる機会を提供する芸術鑑賞バスツアーが、九月二十五日実施され、北海道立近代美術館で開催中の「変貌する二十世紀絵画」展を鑑賞しました。



近代美術館のロビーで

槐多忌に参加

馬耕忌の充実のため、二月末に信濃デッサン館で開催されている「槐多忌」に例年参加しています。が、本年は脇坂裕・木保君子両氏が参加しました。



信濃デッサン館前で